

# 埼玉育ちのグローバル人

百聞不如一見～私の個人的日中交流～

第2回 「天津での一年間編」

平成23年度「埼玉発世界行き」奨学生 大内 洸太



埼玉県マスコット「コバトン」



## ● ハイスクールライフ

高校2年生の夏、中国に単身留学した僕は、天津外国語学院附属外国語学校の高校2年生のクラスに入りました。僕の入った高二2班（班＝クラス）は、学年で唯一、英語以外の外国語（日本語、フランス語、ドイツ語）を専攻する学生が在籍するクラスでした。

外国語学校ではありますが、文系の学生であっても理系科目をかなりの分量学ぶこととなります。数学が苦手な典型的文系人間の僕にしてみれば、日本語で授業を受けても「はあ？」となる内容を中国語で聞くわけですから、ついていくのは大変でした。

文系科目は外国語以外に語文（＝国語）、歴史、地理、思想政治があります。最初は語学以上に基礎知識が無さすぎて授業について行けませんでした。社会科大好き人間の僕は中国の参考書を買ったり、放課後に先生やクラスメートを質問攻めにしたりと、頑張って食らいついていたと記憶しています。

あと印象的だったのは「学農」というプログラム。「農業体験か、楽しそう！」と思って先生に「参加します！」と言ったのですが、実際に連れて行かれたのは中国人民解放軍が管理する、天津市郊外の訓練施設。レーザー銃を使ってサバイバルゲームのようなことをしたり、行進の練習をしたり、防空壕のようなところでレクチャーを受けたりと、実際は農業体験どころか軽い軍事訓練。あの1週

間の訓練は今でもたまに話のネタにするほどの貴重な経験です。（ちなみに、高校1年生の時に、より本格的な軍事訓練を皆が受けるそうです。）

こうして中国の学生とともに中国人のアイデンティティ形成の場に1年間身を置き、それを疑似体験した経験は、僕自身が中国を理解するうえで大きく役立っています。



休日にクラスメートと共に遊園地へ。

## ● アフタースクールは近所の食堂で

天津では基本的に学校敷地内の留学生宿舎に住んでいました。放課後の外出はあまり帰りが遅くならない限り割と自由だったので、夕飯は学校の外に出て食べていましたが、学校の近くで50代くらいのご夫婦が開いている食堂によく行っていました。ご飯を食べ終わってもそのお店に閉店まで居座り、店主夫婦や他のお客さん（普通のサラリ

ーマンや近所のおじさん、農村から出稼ぎで来た人等々)とひたすら会話をする、という日々を過ごしていました。学校内では出会えないような、多様なバックグラウンドを持つ人々と会話できたことも良い経験だったと思います。

ちなみに、店主夫婦は僕の悩み相談に乗ってくれたり、僕の誕生日にはメニューにない長寿麺(中国で誕生日に食べる麺料理)を出してくれたり、まるで実の家族のように良くしてもらいました。今でも天津に行ったときは必ずそのお店に寄っています。



帰国直前、北京オリンピックの聖火リレーを見に  
@天津

#### ●百聞は一見に如かず

16歳で決意した中国留学。到着早々言葉が通じないわお腹壊すわで早速ホームシック状態でしたが、先生やクラスメートのみならず、多くの人と交流し、支えてもらったからこそ、楽しく有意義な1年間を過ごすことができたと思っています。正直、中国に行く前は「中国人はみーんな日本人を嫌ってるんだよな」「悪いことされないといいな」なんて思っていたのですが、そんなことを思い込んでいた自分が心底恥ずかしくなるくらい、本当に多くの人たちに良くしてもらいました。上に挙げた人たちのみならず、夜遅くまで一緒にお茶を飲

みながら雑談を繰り広げた学校の門番さんや、仲良くなってご家族の結婚式にまで招待してくれたスーパーの店員さん、一人一人挙げたらキリがなくなるほどです。私の中国人への認識が大きく変わったとともに、「百聞は一見に如かず」を強く感じた1年間でした。



高二2班のクラスメートとの集合写真。